

アメリカ・インディアンによって語られた
この世界の終わりから
新しい世界のはじまりまで



アメリカ・インディアンに残されてきた謎の石板、
偉大なる精霊の教え、

白人の生き方とバランスを失った世界、
ウラナム、

予言されていたヒンヤとチカサキ、
ナボと呼ばれる人々のヒバと日本の原子力発電、



生きている地球とエロジ、

意識の変革と浄化の日、

三番目の世界から四番目の世界へ、

本当の人間としての質素で自由な、

平和に満ちた自然な生き方

映画 木ピの予言

地球を破滅と狂気から救うために



1986年作品 16ミリ カラー 75分 監督・宮田雪 製作・鈴木雅子、宮田雪、飯岡順一 プロデューサー・田畑裕已
撮影・安井洋一郎、長田勇市 照明・佐瀬康洋 音楽・伊藤詳 ナレーター・佐藤慶 スーパーバイザー・北山耕平

illustration: tom matsuda photograph: y. matsusawa

アメリカ・インディアン「ホピ」に伝わる予言の石板は それを「灰のつまったヒョウタン」と呼んでいた

16ミリ、カラー70分というアメリカ・インディアンに伝わる予言を追ったドキュメンタリー映画が完成した。

これは、監督の宮田雪が、太古から地球を管理する人として生きてきたホピ族に伝わる予言を外の世界に伝えるために、長老たちから選ばれた一人のホピのメッセンジャー、トーマス・バンヤッケに出会ったことから始まる。

約7年かかって完成したこの「ホピの予言」は、この地球に生きているわたしたちへの警告であり、本当の人間としての質素で自由な平和に満ちた自然な生き方を教えてくれるものである。

この予言は石板に絵文字として描かれたもので、何千年もの間、ホピの社会の中でのみ語り継がれてきたものだ。では、なぜ、その秘密にされてきた予言が、外の世界に伝えられることになったのか。

それは、ヒロシマとナガサキに話が飛ぶ。この日本の2つの街が核爆弾によって破壊さ

れたことを知ったホピは、1948年に長老たちが集まり、4日間の部族としては初めての緊急の会議を開いたのだ。実は、この核爆弾のことが、古代から伝わる偉大なる精霊から与えられた予言の石板に語られていたからなのだ。「灰のびっしりつまったヒョウタン」というホピの言葉で伝わっていた、それは「核爆弾」のことだったのだ。

そして、自然を破壊し、ついには宇宙の秩序にまで逆らい自分勝手なシステムや凶器を作り上げ、バランスを失ったこの世界のこと、彼らの土地にある鉱物資源、ウランを掘り出したことで、彼らと、この地球にながもたらされたのが、わたしたちは今、どんな時代を生きているのかを、生命あるものへの限らない尊敬を、この「ホピの予言」は教えてくれるだろう。この映画がきっかけとなり、出来るだけ多くの世界中の兄弟姉妹たちに、ホピの予言と彼らの地球と生命に対する平和な生き方が広まることを、ホピの人たちは祈っている。

宮田雪の映画「ホピの予言」はトーマス・バンヤッケのメッセージを骨組として、核の恐怖を具体的に説明し、被爆国民の日本人はもとより、全世界の人々が一日も早く反対行動に立ちあがり核を絶滅させる日の来ることを熱望しながら、制作された映画である。今、私の日常と、その日常の周辺を見渡してみれば、核を反対する行動のゼロ地帯であることが嫌でもわかる。このような弛緩しきった日常の中で僅か70分の時間をこの映画のために提供することは、それほど難しくはないはずだ。
私達は今、見かけだけの平和を勘違いしてはしゃぐ季節をもうそろそろキッパリと、終らせなければならぬ。

——石岡瑛子 (アートディレクター)

地球上の生命が根本的に対処しなくてはならない問題にいち早く少数民族であるホピ族が糸口を示しているのである。いや、そればかりでなく、命題と解答さえ明らかにしているのである。——細野晴臣 (音楽家)

「インディアン嘘つかない」という、かつての西部劇の台詞が、新たな戦慄を帯びてくる。インディアンの人びとが自ら語る初めての本格的ドキュメント映画だが、最後にその口から出る言葉の数々は、知恵の塊と言ってもよい。人類死滅の秒読みは、すてにはじまっているのである。
——広瀬 隆 (作家)

●LAND and LIFEでは、年に4回映画「ホピの予言」のニュースレターを発行しています。その他、ホピの予言とその教え「ホピの予言のエッセンス」「ホピ平和宣言」、ホピ・チングス「生命の始まりから浄化の日まで」という小冊子、最長老デビッド・マニヤンギ翁から日本人のみなさんへのメッセージ・ポスターを作りました。上映会場でお求め下さい。

●ランド・アンド・ライフ・ジャパン
埼玉県川越市吉田新町3-6-2
TEL.(0492)32-3521 宮田方

6月7日(日) 2回上映 福生市民会館小ホール

13:30 開場 14:00 映画上映

15:20 対談：遠藤洋一

(福生市議)

×宮田雪

大人(高校生以上)1000円

16:00 スピーチ：田島征三 (画家)

16:30 ビッグ・マウンテン・スライド 上映

18:00 映画上映

19:20 対談：遠藤洋一 × 宮田雪

「ホピの予言」上映スケジュール(予定)

5/26東京都世田谷区立婦人会館(☎03(428)6393林), 5/28大阪市ミナミアメリカ村茶寮やすらぎ(詳細ユミズ生活学研究所☎06(252)4148), 5/29京都精華大学(☎075(791)6131内線341LL教室, ユミズ), 5/30三重県亀山青少年研修センター, ☎05958(2)9131岡田), 5/31愛知県常滑中央公民館(☎05693(5)2316横山), 6/1名古屋市キャラバンサライ(横山),

☎0425(52)1711

■会費

子供500円

■お問い合わせ

反農薬の八百屋

KIVA キヴァ

青梅市師岡町3-16-3

☎0428(24)6089



6/7青梅市(☎0428(24)6089KIVA), 東北キャラバン 7/1岩手県民会館(☎0196(45)3461岩品), 7/3宮城県中新田(☎02296(5)4383大内), 7/4宮城県石巻市(☎0225(22)0508日下), 7/5仙台市婦人文化センター(☎022(288)9186羽倉), 7/11東京都分寺市本多公民館大ホール・ゲスト山尾三省(☎0425(75)8291スタジオ・リーフ), 7/12東京青山CAY(☎03(49)8)5790), 7/14長野県大鹿村(☎0265(39)2814河本).....

KIVA

1987

才11号

5月28日

発行:キウ

青梅市師岡町3-16-3

☎ 0428-24-6089



映画 ホピの予言

6月7日(日)

福生市民会館小ホール上映会

核時代の恐怖を訴える

アメリカ・インディアン、ホピ族に伝わる聖なる石板に刻まれた「灰のびしりつまったヒョウタン」、それは核爆弾による世界の破壊と「第四世界」の復活が予言されていた。

7年かけて製作されたこのドキュメンタリー映画は、ホピ族のなかで2000年以上も語り継がれてきた予言を軸に、ウラン採掘による聖地破壊や採掘による被爆インディアンたちの実態を映し出し、見せかけた平和な世界がいままさに崩れようとしていることを伝えている。

質素で精神的な生き方とは

ホピとは、平和に満ちた人々という意味で、彼らの伝統的世界観によれば、この地球上に存在しているものはすべて母なる大地から生まれ、水は母の血液、森は母の髪、鉱物資源は母の内臓——そして、これらがひとつの「環」になって生きるのが世界の本来の姿だという。

ホピの生き方に、本当の平和とは何か、自然にまかそうことの恐ろしさを感じとして、ひとりひとりが自身自身の足元をみつめることができれば、まずこの映画の意図は果たせられる。

現代にあって北米インディアンと日本人が「核」という問題をめぐって、深く結びつけられていることを思い知らされた。

インディアンが「偉大なる聖霊」から与えられ、長年調和のとれた生活をしてきたその大地から採掘されたウランは、原爆として広島、長崎に投下され、いまだ原発の核燃料として利用されているというのだ。

人間の未来を問いかける

——「ホピの予言」をみて——

安井之彦

■タイムスケジュール

- 13:30 開場
- 14:00 映画上映 (16mm・カラー70分)
- 15:20 対談: 直藤洋一 × 宮田 雪
(福生市議) (監督)
- 16:00 スピーチ: 田島征三(画家)
- 16:30 「ビッグマウンテン」スライド上映
- 18:00 映画上映
- 19:20 対談: 直藤洋一 × 宮田 雪

■会費

大人 1,000円 小中学生 500円 チケットは
お早目に。



▲予言を語るトマス・バンヤック氏

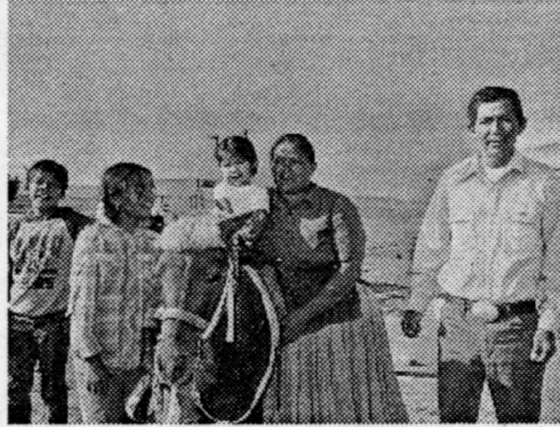
そしてもっとも衝撃的なのは、ウラン鉱石の精練工程で生じる放射能廃棄物の降り積った大地を転がって遊ぶ

子どもたちの姿だ。その光景を映像の上に凝視めながら私は、彼らと「核」という枠組をどう乗り越え、つなが

ていけるのか考え込んでしまった。

(青梅市在住)

反核映画で平和と環境考えよう



ホビ族の住む米国南西部の高
原砂漠地帯は、ウラニウムなど
原子力鉱物の宝庫だ。千年以上
前から語り継がれた「ホビの予
言」には「人間が大地と調和を
持つて生きられるまで、(鉱物
を)掘り出してはならない」と
伝えられ、原爆を象徴する「灰
のびっしり詰まったヒョウタ
ン」の投下を示す絵も、伝来の
「予言の石板」に描かれてあっ
た。ところが、広島や長崎の原

アメリカ・インディアン
のホビ族と、その
「予言」を通して反核を訴えるドキュメンタ
リー映画「ホビの予言」(宮田雪監督、16ミ
ニカワー・70分)が七日午後一時から、福生市
民会館小ホールで上映される。全国各地で自
主上映運動が続いているが、多摩地区では初
の上映だ。青梅市の「反農薬の八百屋『キウ
ア』」が、「本当の平和とは何か? 自然に
逆らうことの恐ろしさを足元から見つめてほ
しい」との願いを込めて企画した。

7日・福生市民会館で

「ホビの予言」

「多摩での運動広げたい」 反農薬の八百屋「キウア」が企画

多摩地区で初上映される「ホビの予言」
から

爆もここから掘り出されたウラ
ンで作られ、「予言」を無視し
た人類は核時代に突入した。
米国の反核集会で、ホビ族の
長老とめぐり会い、人類への警
鐘ともいふべきこの「予言」を
知った宮田さんは、何度も現地
へ通い、六年がかりで映画を完
成させた。「予言」を語る長
老、鉱物採掘で被ばくし「聖な
る大地」から強制移住させられ
るホビ族——平和とかげがえの
ない地球への思いを込めたドキ
ュメンタリー作品になった。
七年ほど前から、無農薬野菜
の販売などを進める「キウア」
が、上映運動に取り組んだのは
「チェルノブイリのような事故
が日本で起きれば、すべてが汚
染されてしま
う。地球の環境
を守るという意
味で、反農薬と
反核・平和は一つの運動だ」と
の思いからだ。四月に映画を見
て、すぐに地元での上映を企画
した。

当日は、宮田監督も来場し、
遠藤洋一・福生市議(福生市民
連合)と対談するほか、日の出
町在住の画家田島征三さんが感
想を語る。映画は午後一時と六
時に二度上映。
会場は、これまで何度か「核
疑惑」が指摘された米軍横田基
地のすぐそば。「多摩での新し
い運動を広げるきっかけになれば
」と主催者はいう。会費は大
人千円、小中学生五百円。

多摩・北

立川支局
立川市錦町2-6-2
0425-24-5104



1987/06